

お座

伊東聯合艦隊司令長官の所を以て歸着候
申す所々朝或方々を申す候り候に三四日

以後ありしとの事には能く

比志島混成部隊しホウ工島を夜ハ軍艦運送
船し候結部人をもえ候り本月十日迄十四日
頃ハあり候護送軍艦は第一遊撃艦隊浪
連より千穂支隊秋津洲し四艘より東即日

令官之を乗し別ハ伊東司令長官旗艦艦
松島より都令五艘より行く候に能く

先づ以内報申上り通り初めハ井上西海艦隊司令
長官を乗し此方面より向ふ候に能く

陛下し思召され候戦以來し勦方ハ亦れハ
今夏まじハ秀候り伊東中將を向け其功

を全ふせしむ候と云ふ事ハ決したる也
の由に以て先づ伊東中將し手よ

ホウ工島を巨砲し同島を海軍根據地と
爲し其後進撃と云ふ時は西海艦隊之

に向ふ事花々しく而して基隆進撃し
其は又ハ新著兵一師團はかりを之ハ

充つる所と云ふ候に能く
近衛師團と大阪師團とハ亦所り北京攻撃

に云んてハ小隊より如く此二師團と月下
威海衛又ハ旅順口より然本仙臺

二師團とハ北京より向ひ第一軍ハ
ツマリ現時し方面より向ひ守りし

外ハありまじきかとの候に能く

渤海し扶張ハ最早ソロハ解期とハ
其成り得候候日ハ解張するに凡

次身より再た直つて扶張するに亦
例たりツマリ三月一杯ハ安ん出候事と

の事ハ亦ハ近衛師團及び大阪師團
加兵度するに本月二十日迄より四月

初旬よりあり候に能く
其を配り候に



何れに於て三月一杯の間に
の事なれば近衛師團も大改師團
加増度するに本月二十日迄より四月
初旬の間に兵を配り付け
る方針が甚だしく得られども
第一軍方面に東条師團名古尾
師團及び瑞島師團をこのま
のまま守り又一方は基隆
中上陸大舉して北京に向ふと
云ふ如き事もありませぬや
と
懸念する者ありしに即ち一時は三
方を大戦と云ふ事もありませぬや
と申し何れも四月廿月の最中
快く時かと云ふ事あり
比志島混成隊に出発し遠征するに
全く威海衛に片付けが豫期より
後れたるが如き事ありは陸
軍のみを知らぬ事ありとの事な
れど併し陸軍に運送船取扱の毎
あつた非難多く海軍人の非難
甚だしく何れも惜しきは威海
衛に大砲破壊し一事を若し
島を巨砲し同島を根拠地とするに
直るに海岸砲臺を設くるの必要あり
此威海衛に戦利品を充つれば
利益ある事と云ふ海軍も威海衛に
後直るに此大砲を日本に持ち来
るか否か
劉公島の旅順口をもちと運送船
をせしむ陸軍も何方も其年
逐日高く之を破壊する事決し
既し破壊
し盡したる由なり
陸軍が破壊を決したる理由に
長くあり
兵の時敵は教養し援兵を
送り出すに速に
仙基師團と第一旅團との
間に大砲を置くに破壊し
援兵の来るに速に我兵は旅
順口を引揚

兵の時敵は殺害し援兵を懸念せしむるに
仙基師團と然本一旅團とのみあり防ぎ、

難けし惜しきあがし大砲を悉く破壊し援
兵の来らざるを先んぢ我兵は旅順口より揚
ぐべしと云ふもあり尤も敵が大援兵を擧り
出さば事費より上海府中あたりの報ずる如くは

二月十日即ち北洋艦隊降参二三日後二線り
出しの本軍令を下したるもの如くは途中
よあるありと云へり去るより七何れか他は辛陵
ハあがりし如二十四サシケの巨砲を以て一門十萬

圓と云ふも其費事甚彈藥及び運送費保候
費等を加ふる時は一門二十萬圓以上三十萬
圓近くも要する程ありと云ふ申す

費は斯る場合と云ふは陸軍ハ仕方のあるもの
運送船し荷物も積みおろしか略どるのみ
あらず海軍巨砲などの取扱も至るべき年の付け

標なく夜砲する事も出来ぬが先破壊す
る事も出来ず愈々破壊と決して七破壊する
事出来ずし軍艦より一人の士官が下士が

行き帰火薬も其口を破壊し見せたる
は其俘獲する幸ふらん強りし巨砲を破
壊し得たりと云ふ事と云ふは

劉公島砲臺し巨砲と軍艦し巨砲かけ
海軍より受け佐世保が員まで運ぶ事
証し数口の中より所付け方所む由は既に是れ

のみを先づは統攝する戦利品と云ふは
斯る次第も北滿州を占領し南基津を占
領したる時より右南北の巨砲地守備として二師

團の陸兵を増置する事は勿論あり陸兵のみ
ては中も年早き英國迎を相争する事ハ出来
ざれば別一師團の海兵(明治十年以来は新艦艦子

設けありし如きもの)を設け要迎かれば大なる事
は此れ也此事は自ら編成法も詳細に於ては
ル所地りも報可申す
内地の準備あり陸軍東北に斯る手段は至理あり
支那し陸軍ハ日本陸軍より一層進歩し兵士
威海衛を防禦するも旅ては防備物として出し備
へたる逆茂木を以て我兵に進む標とな
りたる如きの天銃もあり此れは若し支那し
陸軍より北洋艦隊の半分し度まむも進歩し
兵士も中々其の如き勝戦の勇を連たしとの
事ハ数日前歸朝したる東條中佐も亦前を

この中に七年早キ、英國迎を相争りたる事ハ、東
ガルバ別日一師團の海兵(明治十年次まで竹鶴元子
設けありし如き中)を設け置かば、此バ、大キありとの事
ニ此誌に此事の件を編成法ハ詳細ニ示し、此
ル所地ハ報可申上

内地ヨリみ備へたる陸軍東バ斯、三年後ハ、主理ありす
支那ハ陸軍ハ日本陸軍より一層進歩し、兵士ありて
威海衛を防禦するも、旅シ妨害物として出さし備
へたる逆茂木あるが如く我兵ハ進む所
りたるありとの事、故ハあり、此ハ若し支那ハ
陸軍ハ北洋艦隊の半方ハ度まで進歩し
居下バ、中々交の如キ、勝戦ハ勝連ありとの
事、教日、前歸朝したる東條中佐ハ、即ち
夫夫上したるとの事ハ、此誌に何とて連戦
連勝ハ相争が支那ありバ、是を若し是ハ、
日本の陸軍ハ進歩し、兵士ハ且つ強しあると勝
つ勝る様多ハ、今後ハ戦ハ、非常の目ハ達
しとの事ハ、此誌に諸外国公使館附の公使ある
が経年祝祭したる報、先ハ、支那兵ハ勝たり
とて、未だ日本兵強しとの證據とハ、相争が
弱キが、勝ちたるの事ハ、是ハ、ありとの事ハ、
是ハ、何とせよ、後の兵制上ハ、研究を
要する事と存シ

若年時機と存ハ、少シ従軍シ、儀若田其甫ハ、
西氏まで申上り、何年、西氏ハ、相争申上
り、此ハ、諒察ハ、北京進駐ハ、しり、
各社重立したる記者ハ、相争ハ、従軍する由、大和堂
ハ、在リ、知ル、記者あるハ、試験して、監報するとの事ハ、
此誌に

三月下

大隈伯閣下

梅久生